

2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 21 日

所属	政策情報学部	職名	准教授	氏名	坂本 旬
研究課題	日本における企業／企業家による文化・芸術関連活動と文化創出の歴史的展開				
研究キーワード	企業メセナ、フィランソロピー、アート・マネジメント、CSR、CSV、企業家精神	当年度計画に対する達成度		3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した	
関連するSDGs項目	4. 質の高い教育をみんなに	8. 働きがいも経済成長も	11. 住み続けられるまちづくりを	12. つくる責任 つかう責任	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>本研究課題においてはまず、日本における企業あるいは企業家による文化・芸術関連活動に注目し、個別企業や企業家がどのような活動を行い、そうした活動が社会や企業にどのような影響を与えてきたかということについて、先行研究を中心に検討した。ここでは、これまで企業メセナや文化活動支援を積極的に行ってきた資生堂に関する先行研究について調査を行い、資生堂による文化の創出や意匠部、資生堂ギャラリーの役割について検討した。また、文化・芸術活動との関連が深い企業家である大倉喜八郎や大原孫三郎、根津嘉一郎にも注目し、その活動や思想に関する先行研究を考察することで、企業が文化・芸術関連活動を行う背景にある企業家精神や、それらが企業文化や企業経営そのものに与える影響について検討を加えた。</p> <p>2022 年度においては、前年度に行った先行研究整理に続いて、企業による文化創出を牽引する役割を担った企業や企業家に関する先行研究についても整理することで概ね順調に進展したものの、それをふまえた実証研究には至らなかった。こちらについては、昨今の状況により企業資料館の訪問・資料の調査を実施することが依然として困難であったことが大きいですが、状況は改善されつつあるため、引き続き理論的な検討を継続しつつも、資料の収集やそれを用いた実証研究を行い、論文の執筆を行う。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>坂本旬「経営学における歴史研究の方法とその意義」『CUC VIEW&VISION』55号、2023年。</p> <p>3. 主な経費</p> <p>・関連書籍や資料の購入に使用した。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>基盤研究（C）：2018年～2022年、分担、「企業の多角化とメディアミックスの経営史：日本クリエイティブ産業企業の比較研究」（18K01769）</p>					
（本文は <u>2ページ以内</u> にまとめること）					